

2021.03.28.「聖書の学び」

非常に必要な念押し（新約聖書：テトスへの手紙 3 章 1～7 節）

JD ファラグ牧師

おはようございます。オンラインで参加下さっている皆さん、第二礼拝へようこそ。日曜の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は「聖書・預言アップデート」で、第二礼拝が、節ごとの「聖書の学び」です。現在「テトスへの手紙」を学んでいて、今日の御言葉箇所は、3 章 1 節から 7 節までです。よろしければ、さっそく始めましょう。ここにいらっしゃる方は、可能であれば、立っていただいて、私が読むのに、ついてきていただきたいと思います。ご無理であれば、座ったままで結構です。

使徒パウロは、聖霊によってテトスに手紙を書いています。3 章 1 節、 "注意を与える "と記されています。その言葉に留意しておいてください。後ほど解説します。

### テトスへの手紙 3 章

「あなたは人々に注意を与えて、その人々が、支配者たちと権威者たちに服し、従い、すべての良いわざを進んでする者となるようにしなさい。」 -1 節-

「また、だれも中傷せず、争わず、柔和で、すべての人にあくまで礼儀正しい者となるようにしなさい。」 -2 節-

「私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。」 -3 節-

「しかし、(タイミング良く) 私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、」 -4 節-

「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。」 -5 節-

「神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。」 -6 節-

「それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。」 -7 節-

うわー！すごいですね。お祈りしましょう。よろしければ、ご一緒をお願いします。

主よ、今日ここに、あなたが私たちに与えられた御言葉箇所に感謝します。主よ、それが私たちが今日ここにいる理由です。私たちがここにいるのは、私たちは、人生に語りかける、あなたの御言葉を聞くことに、飢え渴いているからです。主よ、私たちは、聞く耳、見る目、受け取る心を持つためには、聖霊が必要なのをはっきり認識します。聖霊が私たちの注意を引きつけ、維持してくださらなければ私たちには無理で、聖霊がしてくだされることなのです。ですから、あなたはこの御言葉の教えに油をお注ぎください。主よ、私たちは、あなたがなされる何をも見逃したくありません。敵はそうします。敵は、私たちが惑い、思考が迷い、今日私たちのために用意してくださったものを見逃すのを望んでいます。主よ、あなただけが御出来になる方法で、聖霊の静かで小さな、洗練された声で、私たちに語りかけて下さい。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。ご着席ください、ありがとうございます。

さて、今回は、第 3 章 1 節の最初にある "注意を与える "という言葉についてお話したいと思います。

その理由はこうです。今日の本文では、使徒パウロが聖霊によってテトスに宛てて、何よりもまず「人々

に注意を与える」よう指示しています。タイトルを「常に必要な念押し」としました。なぜなら御言葉の中に、このような念押しが7つ、実際には8つあったからです。しかし、これから見ていくように、この8つ目は、聖霊の「なさる方法」が含まれています。それが神の御言葉の醍醐味なのです。聖霊の「どのように」という言葉が、御言葉の「何を」行うかを可能にし、力を与えてくれるのです。

今日の「聖書・預言アップデート」では、御霊が神の御言葉を通して、神の民に語ることに、聞く耳を持つことができるという話をしました。それが方法なのです。そして、聖霊が私たちの人生に語りかけるのは、単に神の御言葉だけではなく、「どのように」ということもです。ありがたいことに、神は私たちが放っておいて、「こう言ったのだから、そうしろ。じゃあな！」とはおっしゃいません。いえ、それは神の召しであり、神が可能にしてくださるのです。神は、それが実現可能となる聖霊の力を付与することなしに、私たちに何かを命じたり、召したり、励ましたり、教えたりすることは決してありません。

では早速ですが、ここからが本番です。仕事に取り掛からなければならないので腕まくりをしましょう。もちろん、みんな袖の短い・・・あら、そうでもないみたいですね。ここは寒いですよ？ 私は尋ねませんよ。なぜなら、「寒い人は？」と聞けば、必ず50%の人が手を挙げます。「暑い人は？」と聞くと、50%の人が手を挙げます。ギブアップです。最初のもは1節の最初の部分で、「権威者に敬意を表す」ことです。ここで、パウロはテトスに、自分よりも権威のある立場の人に従い、敬意を払うことを、人々に思い出させるように言っています。これは大事で、最初に取り掛かるには良い問題です。皆さんもそう思いませんか？ 今の時代、権威に対する敬意がないことにも同意していただけますか？ 権威を尊重しないだけでなく、権威を徹底的に軽視、蔑視しています。ここでもう一度、「Remind(思い起こさせる)」という言葉の頭に入れておく必要があります。これは何も新しいことではありません。テトスは、クレタ島の人々にこれらのことを思い出させるように言われています。彼らは、このことを思い出す必要があったのです。そして、私たちもまた、このことを思い出す必要があるのだと思います。権威への敬意を示すこと。自分より権威のある人を見下しているときは、あなたは、神を冒瀆しているのです。2つ目は、実際1つ目に結びついていて、1節の中盤部分にある「従順に生きる」ということです。パウロは、権威を尊重することについて、クリスチャンの生活は本当に従順であることが特徴であると言っています。従順であれ、法律に従いなさい。手早く言いますが、神に背くことになっても、法律や権力者に従えということではありません。使徒の働きの中で、弟子たちが言っています。「もし、私たちに与えられる選択肢が、イエス・キリストの名の下に宣教することを止めるよう強制するものであれば、私たちはそれを拒否します。

「人に従うより、神に従うべきです。」(使徒：29)ところで、これは大事なことかもしれません。どうか聞き逃されませんように。私たちは権威を尊重しますが、もしそうすることが、神や神の御言葉に背くことになるならば、その権威者には決して従いません。ですから、これには十分注意してください。あえて言うならば、これは聖書の真理ですが、聖書に反する極端な方向に言わば、持っていかれてしまっています。さて、これが、1節後半の後半の、「良いわざを進んでする」に繋がります。興味深いことに、パウロは「良くあれ」とは言っていない。「良いわざをする」と言っているのに気付きましたか？ 「良いわざをする」という意味ですか？ 良いことをして、どんな状況にも対応できるようにすることです。クリスチャンは、主が正しいことをする機会を与えてくださったときには、先頭に立って善をなすべきです。それが神の名誉につながるからです。神の栄光をもたらすからです。これを逆にしてみると、したくはないですが、たぶん必要かもしれません。これを知ってください。私たちが正しいこと

をしないとき、誰かのために良いことをしないとき、神は目に留められないだけでなく、神はそれに祝福をもされないということ。神は、それを祝福することが御出来にならないのです。旧約聖書の王たちを研究する中で、聖書で分かったことの一つは、イスラエルの歴史で、どれだけ多くの邪悪な王たちがいたかという現実でした。まったく多くの王、王に次ぐ王が、主の目には悪しきことを行い、邪悪な支配をしました。これらの王の中には、あまりにも邪悪な者がいたので、神は彼らを殺されました。当然なのかもしれませんが。すべての王のうち、主の目に正しい、善い行いをした王は9人しかいなかったことを知っていますか？ イスラエルの北の部族には、一人もいませんでした。彼らはみな南ユダの王です。すべての王のうち、主の目に正しいことをした王は、たった9人だけでした。これには、少し時間をかける必要があります。2節の最初の部分にあります。パウロは「誰も中傷しないように」と念を押しています。どうかご辛抱ください。私は、誹謗中傷や噂話をするのが、どれほど重大で、深刻なことであるのかを、強調しすぎることはないと思います。使徒書の中で、私にとって本当に印象に残っていることの一つは、パウロが彼のリストの一つを行った時、この時間の終わりに、それらの1つを神の御言葉でお見せします。あなたは、パウロが殺人者や姦淫者を列挙しているリストを知っていますか？ 「まあ！私は誰も殺していませんよ。」「私は殺人者でもなければ、不倫もしてませんよ。」しかし、そのリストの中に、殺人者と同じレベルにまで達するものが含まれています。噂話をする人です。「私は善人で、殺人、姦通はしてません、無罪です。」いや、事実あなたはそうなのです。心の中で誰かを憎んでいると、その人を殺したことになるのです。心の中で誰かに欲情しても、姦淫することになるので、どちらにしても逃れられません。しかし、噂話や誹謗中傷が、そのリストに入るレベルまで上げられているのは興味深いことではないでしょうか。実は神が嫌うものの一つであると、「箴言」の中で語られています。このリストが、またなかなか興味深く、7つのこと、実際6つですが、7つ目は神の忌み嫌われるものです。7つ目が何か知っていますか？ 兄弟の間に、不和と中傷を引き起こす者です。ここで、なぜ神がこれほどまでにこれを深刻に捉えられているのかを考えてみました。人を中傷したり、噂したり、悪口を言ったりすることが、なぜ主の御目にはそれほど深刻に映るのでしょうか。神が、それを最初に受けたお方だったからです。考えてみてください。天国で、ルシファーが、最初の中傷者、兄弟を非難する者で、不祥事を起こし、御使い達を分裂させてしまいました。それが理由です。そのことが引き起こす深刻さ故です。なぜ神は憎まれるのか、なぜ「箴言」のそのリストの中の、特定のものを忌み嫌われるのでしょうか。神の民に影響を与えるからです。イエスが、離婚を嫌っていると仰っていたのをご存知ですか？ なぜかという疑問を持ったことはありませんか？ 離婚した”人”を、憎んでおられるわけではないのを理解してください。そうではなく、彼は離婚そのものを憎んでおられるのです。なぜ離婚を嫌われるのでしょうか？ いくつかの理由がありますが、一番の理由は、結婚とは、花婿であるイエス・キリストと私たちの関係の縮図であるからです。最高の理由ですが、もっと現実的な理由があります。神が離婚を嫌うのは、離婚が、その当事者にどんな影響を与えるかが故です。神は、分裂が神の教会に何をもたらすかが故に分裂を憎まれます。だからこそ、神はそれを憎んでおられるのです。だから、忌み嫌われるのです。一緒に「詩篇 101 篇」を見てみましょう。5節を読みますが、そこに注目する理由というのは、ほ～ 聖書のページから火が飛び出るようなものだからです。これを聞いてください。

## 詩篇 101 篇 5 節

**「陰で自分の隣人をそしる者を私は滅ぼします。」**

”災いだ！”「高ぶる目とおごる心に耐えることはできません。」ちょっと待ってください。一見すると、

これはほとんど釣り合いません。隣人が自分の車道に駐車することに悪口を言う人を、滅ぼすのですか？ それはちょっと、彼を滅ぼすのですか？ それは、あまりにも不相応では？ 私がこの極端なケースを使っているのは、もっと良い例がないからです。なぜでしょう？ 私の考えはこうです。神が、そうならなければならないからです。神は、誹謗中傷者が滅ぼす前に、誹謗中傷者を滅ぼさなければならないのです。同じことを違う言い方で、もう一度言ってもいいですか？ ちなみに、これは旧約聖書全体にたっぷり書かれています。これは人々が、旧約聖書の神を裁きの神、火と硫黄の神として誤って描く箇所です。それは間違った表現だと思います。

「(神は) **だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。**」

(第二ペテロ 3:9)

滅ぼされる前、神は、長いあいだ忍耐され、怒るのに遅く、愛ある優しさと慈悲で、多くの時間を与えられたのに、彼らは悔い改めない、という記述を 何度読んだことでしょうか。木曜日の夜にイザヤ書第9章を学びましたが、とても興味深い章です。次の木曜日、主の御心なら、10章を取り上げる予定になっています。しかし、ここでイザヤはユダ王国への裁きが来ることを預言しています。アッシリア軍がユダに侵攻してきます。そして、主が彼らに仰います。

「このようなことは避けられたはずだが、あなた方は私に立ち返らず、私から遠ざかった。だから、私はあなたを裁き、このことが起こるのを許さなければならなかった。」

しかし、4回もこう書かれています。

「なおも御手は伸ばされている。」(イザヤ 10:4 参照)

それが神の憐れみです。さて実は、これは主の裁きの手、主の重い手ではないかという意見もあります。それでは、神の憐れみとは一致しません。なぜなら、第9章は偶然にもあの有名な章だからです。この章で、預言者イザヤのこの預言が書かれています。

「**ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。**」(イザヤ9:6)

そして、私たちはクリスマスにこれを引用したり、歌ったりするのが大好きです。しかしそれは、来たるべき救い主の約束であり、救い主を信じるならば、恵みによって彼らを救うというものでした。それが神の憐れみなのです。それが慈悲なのです。つまり、「あなたがたはあなたは私の手を叩いて遠ざけた。

しかし私は、なおも御手を伸ばしている。」神が手を引いてしまわれれば、破滅を許され裁きがあり、それが続くなどと一瞬たりとも思ってはなりません。それは常に高慢さに起因します。それは決まって墮落する前にあり、高慢さとは破壊する前にあるものなのです。しかしその前に、神の憐れみ、愛、恵みによって、私たちが正気に戻り、悔い改めて神に立ち返るための神は、十分な時間を与えておられます。

最後にもう一つ、驚くことではありませんが、お話しします。もう一度言わなくてはなりません。本当はしたくないのですが、主は私の心を知っておられます。しかし SNS で、クリスチャンや、あえて言えば、悲しいことに牧師たちが、他人を中傷することがあります。神は、そのような SNS 投稿に注意を払っておられます。あなたは人を中傷し、分裂を生み出しています。それは、主の御目には忌まわしいことです。先に進みましょう。どなたかは、「イエス様、先に進むことに感謝します。」 と思っているでしょう。

5つ目は、2節の後半部分「争わず」です。パウロは「平和的であること」について語っていますが、これは平和を作る者であるという考えで自分にできる限り、すべての人と平和に暮らすという意味です。これはパウロが、ローマ人への手紙 12章 18節に書いた言葉です。彼はこう言っています。

「自分に関することについては、できる限り (どうしても無理な場合もありますが)、すべての人と平和

を保ちなさい。」もう一步踏み込んで言うと、これはまた、「できる限り、可能な限り、平和を実現する」ことを意味します。オズワルド・チェンバースの言葉だったと思います。ずっと心に残っています。私は、忘れたことはありません。主は何度もそれを思い出させてくださいます。彼は、"あなたが不当な扱いを受けたかどうかではなく、あなたが不当な扱いをしたかどうかだ"と言いました。これですべてが変わります。それは、すべての様相を変えます。「そうだけど、本当にあいつらが悪いんだ！」「いやいやいや、あなたが何か、不当なことをしなかった？」「私には、何も悪いところはない！彼らが謝るべきだ！」結婚の話をしませんか？ その話をしてもいいですか？ 皆さんの表情を見て、とりあえず話すことにしました。どうでしょうか。夫婦が、口もきかない日は何日も続いている。それを "沈黙の治療" と呼びます。「彼は、私のところに来て謝罪する必要がある。」「彼は、私を不当に扱ったので、和解しに来なければならぬ。」え、そうなのですか？ 皆さん、ちょっとだけ話しましょう。奥様方、少しだけ時間をください。私がこう言っても、ご主人を小突かないでください。私たち男性は、「家族の霊的リーダーは私だ。」と言います。なるほど、当然のことですね。でもどうして、あなた自身をその地位に置くことにしたんですか。「妻がいるから、仕方がないんだ。」しかしなぜ、このこと以外のすべての分野で、霊的リーダーシップを取りたがるのでしょうか？ どうかお聞きください。あなたが霊的なリーダーなら、じゃあ、率先して奥さんと仲直りしたらどうですか？ 「でも彼女は、あなたが私に与えた女性で.....神様.....」ですよ？

皆さんアダムの罪の性質をご存知ですよ？ 考えてみると、本当にゾッとしますよね。そんな風に考えるならユーモアがあります。でもエバが騙されて、神が一番に来られるのはアダムです。皆さん、気がつきましたか？ 確認してください。正しければいいんですけどね。はい、間違いありません。神は、先ずアダムのところへ行かれます。「アダムよ。」「ちょっとお待ちください、何を仰っているのですか？ 騙されたのはエバの方です。」「分かっていますが、今は彼女の話ではない。あなたのことを話しているのだ。」アダムの反応は？ 「あなたが与えてくださった女性ですよ！！」最初に読んだ時、彼が彼女を非難していると思いますよね？ そうではなく、彼は、彼に彼女を与えてくださった神を非難しているのです。ちょっと重罪にし過ぎてます？ それから、もちろんエバも、蛇を非難し神のせいにはしていますね。大変残念ですが。しかし「私が不当に扱われた」ではなく、「私が不当に扱った」なのです。ところで、最後に出てきますが、あなたも間違っています。この言葉を知っていますか？

"It takes two to tango" = 責任は両者にある。そうですね、そうですね。先に進みましょう。

2節の3番目の部分に「思いやりがある」(新改訳では"礼儀正しい者となる")とあります。お～ こういう言葉、今の時代にどれだけの希少価値があるのでしょうか。今日のクリスチャン生活の中で、最も稀な資質の一つは何かと聞かれたら、私達は恥ずべきだと思いますが「思いやり」でしょう。それは、リストの一番上でなければなりません。私たちは思いやりがありません。他人のことを考えません。自分のことしか考えていません。正直になりましょう。あなたが、一番重要と考えている人は誰ですか？ 自分自身です。自撮りするとき、自分がよく見えるまで撮り続けます。それは自分が映えるからこそ、良い写真なのです。他の人達は目をつぶっているけど、いや、これはこれでいいんだよ、だってあなたは。これは、心当たりがありそうですね？ お気づきでないでしょうが、私は、例話集を更新しようとしています。

**ピリピ人への手紙、2章3節**です。

「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、(聞いてください) **互いに人を自分よ**

### りすぐれた者と思いなさい。」

ここで止めます。私はたぶん、自分と同じようにお互いを大切に考えることができると思います。でも、そうは言ってません。「より(もっと)」という言葉があります。なるほど、これは問題ですね。待ってください。私はあなたを、私よりも大切に思っているのでしょうか？ それは逆ですね。あなたよりも自分の方が重要だと思っています。実際には、あなたのことを全く考えていません。自分のことしか考えていません。それは、身勝手さ、うぬぼれです。これらの言葉の中には、現在の私たちの中ではあまり使われない言葉もあります。先ほど話した"abomination" (醜態) という言葉は、現代ではあまり耳にしない言葉ですよ。しかし、「conceit」や「conceded」(うぬぼれた、驕り高ぶった) という言葉はどうでしょうか。悲しいことに、それが当たり前になって、私たちはその時代の当たり前、順応しているだけなのです。そして、決してそうならないように、そうなりませんように。相手を思いやること、思いやりを持つこと。思いやりを持ってください。「柔和」2節の4番目の部分です。(日本語訳では3番目) 人に対する優しさは、クリスチャン人生の中で最も魅力的な資質とは言えないまでも、最も魅力的なものの一つであると言えば、皆さんも同意していただけると思います。福音書の中で、イエスがどれほど優しいお方だったかを考えます。私はいつもこのことを考えています。そして今日の預言アップデートの中でも、旧約聖書で神がどれほどご自分の民に恵み深くあられたかをお話ししました。しかし、今日の預言アップデートで、私たちはトマスについて、ヨハネの福音書からお話ししました。私たちは彼のことを親しみを込めて「疑い深いトマス」と呼びます。そして、彼は...弟子たちが「私たちは主を見ました！」と言うと、彼は「自分で見るまでは信じない！」と言いました。なぜなら、見ることは信じるからです。「主の手に釘の跡を見て、脇腹に手を入れるまでは！」そして8日が経ち、イエスが戻ってきました。今度はトマスも一緒です。最初の時、弟子たちがイエスを見たと言った時、彼は一緒にいませんでした。だからそれを信じなかったのです。そこで、イエスはトマスのところに行かれ、こう仰いました。

「わたしの手の釘の跡に触れなさい。わたしの脇腹に手を入れてみなさい。今、あなたは見ましたね？ あなたは今、信じますか？」

### 「トマスはイエスに答えた。『私の主、私の神よ。』」(ヨハネ 20:28)

そして、イエスがトマスにこのように仰られる時、救い主の声に、軽蔑や嫌悪感があるとは決して想像しないで下さい。全くそのような口調ではありません。思いやりと優しさと柔和さをもって、彼はこう仰います。

### 「トマス、あなたは見たから信じたのですか。見ないで信じる人は幸いです。」(ヨハネ 20:29)

それは、イエスが弟子たちに「ああ、信仰の薄い者たちよ」と仰ったときのようなものです。このようにイエスが厳しい口調で仰っているとは想像しないで下さい。「ああ、信仰の薄い者たち！何をしているんだ?!」違います… えっと、何人かを混乱させたかもしれませんね。大げさな演技ですみませんが…、しかし、そのように主を見ていますか？ そうでないことを願います。なぜなら、主はそのようなお方ではないからです。彼は柔和さと優しさの典型です。彼の口調を想像してみてください。

「あなたの神はこんなにも大きいのに、なぜあなたの信仰はこんなにも小さいのですか？」「なぜ疑ったのですか？」思いやりから、ただとても優しく、とても情け深く、とても親切で、ただ恵みと憐みと忍耐をお持ちで、いつもとても忍耐強いのです。そして、私たちはそうではなく、それはリストには入っていません。ですから、皆さんリラックスできますね。もしそうであれば、それ自体で説教になってしまうので、そうでなくて本当に良かったです。「忍耐」しかし、忍耐は優しさと同居していると思うのです。

もし神が、短気であられるとしたら、想像できますか？ 皆さんが「天にいます我らの父よ …」と祈ると、「何だ?!」 —「おお…、今はご都合悪いですか…?」「あなたがお忙しいのは分かっています。宇宙やらすべてを運営されていますから。ただ、コストコ・イヴィレイ店の駐車場をお願いしようと思っただけです。— (笑) — 彼はとても柔和です。思いやりのある、という意味です。彼はとても優しい。もしよければ、ここで"思いやり"に戻っても良いでしょうか？ 運転や駐車場、渋滞を用いた方がいいかもしれません。なぜならそれは私が告白し、悔い改めたように、私にとっての領域、つまり問題だからです。それは罪ですが、私はこれを問題と呼びたいです。私にはこの"問題"があります。いいえ、それは"罪"です。罪です。あなたは渋滞の中にいます。ああ、あなたはさっき割り込んで来た人よりも自分が重要なんですね。自分が行かなければならない場所は、割り込んで来た人が行かなければならない場所よりも重要なのです。これをお話したことがあります。皆さん、繰り返し見る悪夢はありますか？ 子どもの頃によくあるのが、パジャマで学校に行き、友達に笑われる夢です。それは悪夢ですね。皆さんにもありましたか？ それとも私だけですか？ 分かりました、気にしないで下さい。ここでは一緒に考えてください。今、私が繰り返し見る悪夢が何か分かりますか？ 私は教会に向かう車の中で、遅刻しそうになって、急いでいます。そして、誰かが近づいて来て、割り込んできました。

「私を苦しめ、遅れさせるためにサタンが使者を送り込んだのだ!!」そこで、私は肉の中にいます。あつという間でした。家を出たときは御霊の中にいました。「主よ、あなたを讃えます。イエス様、感謝します。」賛美の音楽が流れていますよね？ ♪ハレル…! —(笑)— そして、相手がバックミラーで自分を見ているかどうかを確認するために相手を見ているのです。なぜなら、彼らに見て欲しいからです。ああ、皆さんもやったことがありますね。そして、相手が確認できたら、追い越していきます。しかし、ただ通過するだけではありません。そうではなく、追い越して、横に並んだ際に、相手が自分を追い越したんだと知らせるため相手を見るのです！ そして、あなたは教会に向かってスピードを上げ、駐車場に車を停めます。笑顔を取り戻し「主を賛美します。」これが私が繰り返し見る悪夢です。私は駐車場に車を入れると誰が隣に停めるのでしょうか？ —(笑)— 訪問者です。こんな感じで車から降りてきます。

「ああ、この教会に通っているんですか？」—「いや、それよりも悪いことに、私はこの教会の牧師なのです。」これが、私が繰り返し見る悪夢です。なんて思いやりがなく、せっかちなんでしょう。そして、ところで、それは全くもって敬虔で、柔和で、寛大なことではありませんでした。私は罪を論さされたので、この最後の3節から7節に移っていきます。私が"謙虚であること"を選んで使っているのには、いくつかの理由があります。その中でも、謙虚さは「どのようにして」ということですが、その意味を説明します。興味深いのは、パウロが1節から2節でテトスに思い出させるべきことを列挙した後、3節から7節でテトスにこのことを思い出させるために、このような急旋回をしたことです。何をでしょうか？

「ああ、あなたがどんな人だったか覚えてますか？」「救われる前を覚えてますか？」「あなたがどんな人だったか覚えてますか？」ああ、それはとても謙虚にさせられます。そこがポイントです。それが "どのようにして"であり、その "方法"に至るまでの道のりがここにあります。謙虚さは、これらすべての土台となるものです。だからこそ、神は私たちに思い出させることで、謙虚になることがふさわしいと考えておられるのです。では、結婚の例に戻しましょう。夫の皆さん、あなたは妻に厳しく、優しくなく、愛がなく、気が短く、思いやりがなく、数え上げればきりがありません。恨みを持っていて、彼女に沈黙の治療を与えます。では、神はどうなさいますか？ さて、神はたくさんの添付ファイル付きのメールを送られます。実際、添付ファイルの数が多すぎて、自分のドライブにアップロードしなければなりません。

ん。あなたを戒めるため、謙虚にさせるためです。「ああ、そうですか。あなたは厳しくて、思いやりがなく、気が短く、愛情がないようですね。私があなただを赦したことを思い出させる必要がありますか？なるほど、赦さないままです。今、送信を押しました。再読み込みして、開いてくれますか？インターネットサービス業者の速度にもよりますが、膨大な量のファイルをダウンロードするには少し時間がかかります！昔のあなたの全てです！しかし今は、そうではありません、私のおかげでね。」ああ、これでいいのです。救われる前の自分の姿を思い出すのは、私たちの人生に必要な謙虚さをもたらすのです。謙虚さこそが鍵なのです。謙虚さは、知恵の始まりだと「箴言」は語っています。ところで、それはどちらにも当てはまりますね。プライド（高ぶり）は愚かさの始まりであり、謙虚さが知恵の始まりなのです。最後に「第一コリント人への手紙6章」で締めくくりたいと思います。その箇所をお開きください。9節から11節をお読みしたいと思います。なぜなら、パウロはコリント教会への手紙でもテトスへの手紙でも、基本的に同じことを書いているからです。これを読むにあたって、私が指摘したいことがありますので、一緒にお付き合いください。彼はこう語っています。

### 第一コリント人への手紙6章

**「あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません（欺かれてはいけません）。」** さて、ここでリストの登場です。準備はいいですか？

**「淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、」** -9節-

**「盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしる者、最後の1つ、準備はいいですか？ 奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。」** -10節-

さて、もしあなたが11節を読む前に、そこで立ち止まってしまったら、あなたの霊的な傲慢さと高慢さとうぬぼれの中で、あなたは「そうだ！」と思うでしょう。「邪悪な、悪人、不義の人々、彼らは地獄で焼かれるのだ…！」え、本当ですか？ ちょっと待ってください。11節に「あなたがたのうちのある人たちは、以前そのような者でした。…」とあります。「ああ、そう、その通りです。」「おお、そうです…。」

**「…しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」** -11節-

彼が何をしましたか分かりますか？ 「そのような人もいたのですか？」「待ってください、コリントのあの教会の信者たちは、かつてはゲイだったと言うのですか？」はい、ここに書いています。「男色者が？」はい。「かなり生々しいですね。」はい。彼らは上記のような状態でしたが、しかし神は、彼らを救ったのです。救われた今となっては、どこでその考えに行き着くのかわかりませんよね。そして、救われていない人を見て、生まれ変わったように振る舞うことを期待します。ちょっと待ってください。あなたは救われる前はどんな人だったのですか？ 救われる前の私の姿を知りたくないでしょう。実際、主の御名を呼んで救われた時、私はあまりにも酷かったのです。もし私が天の御使いだったら、神に向かってこう言うでしょう。「この人はいけません。これはあなたにとって良い選択ではありません。この人は受け入れないでください。」私たちが救われて、主と共に歩み、光の中を歩いていても、救われる前の自分を忘れてしまうのはなぜでしょうか？ そこに神が駆けつけて下さり、私たちに思い出させ、謙虚にさせてくださるのです。

さて、ここに夫婦がいて、夫がこの添付ファイル付きのメールを受け取ったとします。そして、自分がどれだけ赦されているかに気づくまでに、そのリストを深く見ていくまでもありません。そこで彼は妻のところに行き、自分を謙虚にします。そして、自分が赦しを受ける側であるため、赦さないままにいるこ



とをやめます。イエスが弟子たちに祈ることを教えられたとき、彼が教えられた祈り方の一つは、  
「主よ、私たちの負い目をお赦してください。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。」  
(マタイ 6:12)

思い出させていただく必要がありますよね？ なぜなら、私たちは忘れてしまうからです。特に年を重ねるにつれ、忘れてしまいます。先週、友人と電話で話していて、同級生の一人が主のもとへ帰ったことを知りました。彼が救われていたことを、神に感謝します。彼は脳腫瘍で闘病生活を送っていました。そして、私はメールを受け取ったので、彼に電話をしました。電話でしばらく思い出話に花を咲かせました。ああ、あれは辛かったです。私が救われる前の忘れていたこと、思い出したくなかったことを彼は思い出させてくれました。そして彼は、「ねえ、あの時覚える？」と言いました。私は「…わあ、今思い出したよ。お世話様！！」という感じです。そして、それは私を現実に引き戻してくれたのです。私は「ああ、自分は情けない人間でした。」といった感じです。そうなんです。しかし、神は私を救ってくださいました。そうです。ああ、私は酷い人間でした。私はこれらすべてをしていました。いえ、すべてではありませんが、－(笑)－ 神に感謝します。

これは説教が終わったら、終わらせるという学びで、もっと早く終わらせるべきでした。－(笑)－ お立ちください。それでは、カポノが登場します。ああ、なんということでしょう。同じリストにありますが、罪は罪ですよね？ その話はまた別の機会に。パンドラの箱を開けてしまい、すみません。それらには、そのための比喩があると思います。一旦歯磨き粉をチューブから出したら、元には戻せません。では元に戻して、お祈りで締めくくりましょう。主よ、謙虚にさせ、思い出させて下さってありがとうございます。主よ、私たちは思い出させていただく必要があります。私たちが聖餐式の食卓を共にするたび主の御心ならば、来たる1日の木曜日に行いますが、それは「これをする度に、あなたを覚え、あなたが私たちのためにして下さったこと、私たちのために死に、私たちを救って下さったことを思い出しながら、それを行うべきだ」ということです。主よ、思い出させてくださってありがとうございます。私たちは忘れてしまうので、思い出させてくださる必要があります。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7